

絵本作家さんからの年賀状

二〇一八年 戊 新春

昨年、本誌でお世話になった絵本作家さんから年賀状をいただきました。絵本とはまたひと味違った絵の世界をお楽しみください。



秋山とも子

秋山とも子さん

今年の秋に、お正月をテーマにした単行本が出版されます。



アンヴィル奈宝子さん

5月末か6月に『どうぶつ うた えほん』(グランママ社)が出ます。いろいろな動物たちの曲を集めた歌本です。よろしく。



浦中こういちさん

絵本ではないですが、2月に「スケッチブックシアター にんじやしゆぎょうだ いち、にの、さん!」というのが、かものがわ出版から出ました!



いまきみちさん

長い間やってきて、今はもう品切れになった絵本が多いのですが、あと何冊かつくれたらいいなと思っています。5月3日~8日まで東京都国立市のギャラリーゆりの木で、西村繁男と「絵本二人展」の原画展をします。

いわさきちひろ 生誕100年

幼い子どものしなやかな動きや、やわらかく無垢な表情が印象的な
いわさきちひろの絵は、今も多くの人に愛されています。

1950年代から絵本作家として常に第一線で活躍したちひろですが、
そのルーツはどこにあるのでしょうか。長男・松本猛さんにお話を伺います。

また、生誕100年の今年、「ちひろ美術館」では、

7組のアーティストとのコラボレーション展が企画されています。

さらに「東京ステーションギャラリー」では、原画展を開催。

ちひろの絵画の魅力を、学芸員の成相肇さんに解説していただきました。

最後に、ちひろが手がけた本、ちひろに関する評論で

現在、入手可能なほぼ全点をご紹介します。



1970年、アトリエにて(51歳)。



著作権保護コンテンツ



この人にあれもこれも

絵本作家さん ごんにちは!



「てつぞうはね」
などでおなじみ!

ミロコマチコさん

いろいろな人に絵を見てもらいたいです

出版した絵本の多くが国内外で高く評価されているミロコさん。
絵本のほか、個展やライブペインティング、NHK Eテレ『コレナンデ商会』の
絵を描くなど、活躍の場が大きく広がっています。

撮影/石川正勝

PROFILE

ミロコマチコ

1981年大阪府枚方市生まれ。京都精華大学
人文学部総合人文学科卒業。アーツ
スクール梅田絵本コースで学んだあと、
デビュー作「オオカミがとぶひ」で日本絵本
賞大賞を受賞。4匹のネコと夫と、アトリ
工兼用の一戸建ての貸家に暮らす。

やりたいことが多すぎて
時間が足りません

朝は8時ごろに起きるのが理想。
でも実際は、前の晩飲みすぎて、起
きられないこともよくあります。
10時ごろまでに朝ごはんを食べて、
洗濯をして、テレビ体操をします。
ひどい運動不足なので、録画して必
ず。間に入る体操は曜日によって違
うので楽しいですよ。

そのあとはメールの返信などを
していると、あっという間にお昼に
なるので、昼ごはんを食べて1時間
くらいは休んで、それからずーっと
絵を描きます。ひたすら描く。

夕方7時半か8時ごろには、ネコ
散歩に行きます。ご近所に何カ所
かネコが集まるスポットがあって、
そこをグルグル回ります。野良ネコ
なのでふれあたりはできません。
少し離れたところからネコウォッチ
ング。子ネコが生まれたり、いろい
ろドラマがあるんですよ。9時か
10時くらいに夕ごはん。お酒が大
好きなので晩酌をします。

やりたいことはいっぱいあって、
編み物もしたいし、刺繍もしたい
し、映画も見たい、本も読みたい、
楽器も練習したい。好きなのが
見つかる、ほかのことをほったらか
してやってしまうことも多いの
で、時間がとても足りません。

児童書店員＋編集部が選ぶ



未来に残したい

昨年もたくさんの絵本が出版されました。ある1冊は幼い少女の友だちに、ある1冊はともに冒険に出る勇士に、そしてある1冊はかけがえない思い出に。どれも誰かにとって大切な1冊となったことでしょう。2017年に出版された絵本の中から、児童書店の方に「子どもたちに手渡し、未来に残したい私の1冊」を選んでいただきました。悩みながら1冊にしぼってくださった書店員のみなさま、ありがとうございました。編集部員からの1冊も加えて、コメントとともに書名の五十音順にご紹介します。(紹介文の選者の敬称略)

見返し美人

ギャラリー

表紙と裏表紙の内側を見返しといいます。ご紹介している絵本の中から、見返しも美しいものを集めました。どの絵本の見返しかわかりますか？ ヒントはその見開きページにある絵本のどれかです。

連動企画フェア実施!

この特集で紹介した絵本が並ぶコーナーが設けられます。くわしくは、**子どもの本専門店ブックハウスカフェ** まで
東京都千代田区神田神保町2-5
HP: bookhousecafe.jp
TEL: 03-6261-6177



次のページに
続きます

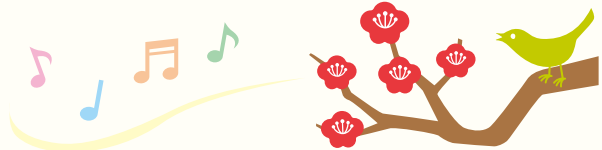


『アームストロング 宙飛ぶネズミの大冒険』

作/トーベン・クールマン
訳/金原瑞人
2,500円(ブロンズ新社)

圧倒的に美しい絵! ネズミたちの織りなす壮大な世界に引きこまれます。著者の人柄も伝わってきて、大人も楽しめます!

(紀伊國屋書店 玉川高島屋店 跡邊千香子)



プログラム

小学校低学年

3月 テーマ: 春がやってくる喜びを感じよう!

① 「だって春だもん」

写真・文/小寺卓矢 1,400円(アリス館)
自然を美しくとらえた写真から、静かに近づいてくる春の気配を感じてもらい、次のおはなしの世界へと誘います。



② 「はるがきた」

文/ジーン・ジオン 絵/マーガレット・プロイ・グレアム 訳/こみやゆう 1,300円(主婦の友社)
じっと待つのではなく、春を自分たちの手でつくるという前向きなアイデアがすてき! さわやかで力の湧くおはなしは春の朝読みにぴったりです。



③ 「カノンとタクト」

作/山田和明 1,600円(出版ワークス)
音楽で結ばれていくふたりのあたたかなおはなしです。音が絵の中にも美しく表現され、春になると大きな橋がかかるようになります。



4月 テーマ: 新学年はワクワクドキドキ

① 「がっこうだって ときどきしてる」

文/アダム・レックス 絵/クリスチャン・ロビンソン 訳/なががわちひろ 1,400円(WAVE出版)
建ったばかりの学校は、みんながはじめて登校してくることに不安を感じます。共感しながら、新鮮な視点に想像もふくらむでしょう。



② 「くんちゃんのはじめてのがっこう」

作/ドロシー・マリノ 訳/まさきりこ 950円(ペンギン社)
はじめての学校に期待と不安でいっぱいの子どもの心をやさしく包みこんでくれます。



5月 テーマ: 大好きなお母さん

① 詩「だれでもみんな」

『矢崎節夫童謡集 きらりきーん』より

著/矢崎節夫 1,200円(JULA出版局)
5月の第2日曜が母の日であることを知らせ、導入に詩を読みます。



② 「また おこられてん」

作/小西貴士 絵/石川えりこ 1,300円(童心社)
母ちゃんに怒られてばかりでちよつと落ちこむけんたらう。でも、父ちゃんの話聞いて満開の笑顔になりました。



③ 「ぼくにげちゃうよ」

作/マーガレット・W・ブラウン 絵/クレメント・ハード 訳/いわたみみ 1,000円(ほるぷ出版)
子ウサギと母さんウサギのほほ笑ましい会話から、お母さんの大きな愛とやさしさを感じられます。



(野阪麻代)

対象別おはなし会のプログラムです。小学生向けは10~15分を目安に、月ごとに組んでもらいました。ここで紹介する絵本や紙芝居は、ご家庭での読みきかせにもおすすめです。春のブックガイドとしても活用してください。

行事絵本・季節の絵本

早春

「じゅんぴはいいかい」

作/荒井良二 1,300円(学研)
「そろそろ準備はいいかい?」と尋ねる声と「いいよう!」と答える声が、あちらこちらから聞こえてきます。ドキドキ、ワクワク、春が来ましたよ。



お花見

「ピッキーとポッキー」

文/あらしやまこうざぶろう 絵/あんざいみずまる 900円(福音館書店)
ウサギのピッキーとポッキーは、モグラのふうちゃんと一緒に、お花見に出かけました。スマレのサンドイッチに木の実のジュースも持ちました。



紙芝居

「なぜ、おひなさまをかざるの?」

脚本/三谷亮子 絵/川上尚子 1,900円(童心社)
もうすぐ、ひな祭り。おひなさまを出しながら、ウサコは思いました。「どうして、おひなさまをかざるのかしら?」。教えてくれる人は、なかなか見つかりません。



紙芝居

「あげはのルン」

脚本・画/得田之久 1,900円(童心社)
カラタチの木にいたあおむしのルンは、てんとうむしから「のろま」と言われましたが、ひと目につかない草の茎に移動して口から糸を出し始めました。



紙芝居

「なぜ、おふろにしょうぶをいれるの?」

脚本/常光 徹 絵/伊藤秀男 1,900円(童心社)
5月5日のお風呂に草がいっぱい入っているのを見て、たろうはビックリ。おばあちゃんが、草の名前とお風呂に入れる由来を話してくれました。



(安富ゆかり)

今号の
注目

『文様えほん』

作/ 谷山彩子
1,400円(あすなろ書房)

もんよう
文様とは、着るものや日用品、建物などを飾りつけるために描かれた模様のこと。人々が言葉というものを持たなかった時代からあり、植物、動物、自然など、さまざまなものから作られました。古今東西、300種類の文様を紹介します。



作者から

文様の意味を調べ、歴史を学び、文章を書いて絵を描いて……永遠に終わらない夏休みの自由研究のようでしたが、3年の時を経てようやく完成しました。静かにスマして座っているような文様たちですが、実はあのシンプルなか中にはいにしえの人々の思いや願いがぎゅっと詰めこまれていて、今を生きる私たちに語りかけています。この本を閉じたあと、身のまわりにある文様たちのにぎやかなおしゃべりが聞こえてくるかもしれません。
(谷山彩子さん)

『ペンギンホテル』

作/ 牛窪良太
1,400円(アリス館)

ここは動物たちが泊まりにくる、海の上のペンギンホテル。オーロラを見たいライオン、家族で楽しむシロクマ、待ち合わせをしているキツネ……。深夜にはプレゼントを配り終えたサンタさんまでやってきました。



『みーんな はははっ』

作/ オームラトモコ
1,000円(アリス館)

大きく口を開けて笑うと歯がよく見えます。ネズミやライオン、ウマもカバも、みんな「はははっ」と歯を見せてごはんを食べています。「きゃははははっ」と笑った赤ちゃんは、2本の歯が生えたばかり。何を食べるのかな？



もう
読んだ？

新刊
100!!

2017年9～11月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

※出版社五十音順

🍷マークは乳幼児から、🎵は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント🎁

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『パーちゃんのパーカ』

作/ ミシシッピ
1,400円(あかね書房)

パーちゃんは不思議なパーカを着て今夜もお散歩に出かけます。パーちゃんは不思議な長靴やセーターなどを使って、大冒険もお手のものです。みなさんも無敵のパーちゃんと一緒に散歩しませんか？



『ねむたいひとたち』

作/ M.B. ゴフスタイン
訳/ 谷川俊太郎
800円(あすなろ書房)

父さんと母さん、ふたりの子どもたちはとても眠たいひとたちです。場所さえあればあくびをし、のびをし、にんまりして眠ります。父さんが用意してくれたスナックと母さんの歌でまた眠くなりました。



『はたらく』

著/ 長倉洋海
1,400円(アリス館)

寒い水くみ場で、険しい山で、市場で、畑で子どもたちは働いています。どんなにつらくてもきびきびと自分の仕事をこなすのは、家族のためなのでしょう。働くことの本当の意味を子どもたちが教えてくれます。



※JPIC直販の定期購読の方に、抽選で新刊絵本100冊から1冊をプレゼントします。同封のアンケート用紙に希望する絵本のタイトルと必要事項を書いて、郵送またはファックスで応募してください。